



JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

未来を拓く協同組合 SDGsとJA



監修＝JCA（日本協同組合連携機構）

第28回

つくる責任 つかう責任

世界の人々は大量の資源やエネルギーを使って多くのものを生産し、大量に消費して暮らしています。このような暮らしは、地球に大きな負担をかけることとなります。SDGs（エスディーゼズ、持続可能な開発目標）で掲げる17項目のうち目標12「つくる責任 つかう責任」では「持続可能な生産消費形態を確保する」ことを目指しています。

JAグループは「つくる責任」を果たすために、食の安全を確保し、高品質な農畜産物や加工品の安定供給に取り組んでいます。環境保全や農業現場で働く人の労働安全のためにも、生産履歴記帳の徹底や、農業生産工程管理（GAP）の推進をしています。また消費面では、日本で年間約612万トンある食品ロス（2017年度）の削減に向け、都市住民向けにマルシェ等を開いて規格外品の農産物を販売する他、各地のJA直売所等でも規格外品を販売したり食堂で活用したりしています。



SDGsに関連する主な取り組み

JGAP取得でルール共有化（福島）

JA会津よつばの南郷トマト生産組合は2019年9月、31農場でJGAP※団体認証を取得しました。40年以上年間2000トン超の生産量を維持している「南郷トマト」を守るとともに、ベテラン農業者と新規就農者間の栽培から出荷までのルールの共有化等を目的としています。

※JGAP＝日本版農業生産工程管理



JA全中『JAグループの活動報告書2019』をもとに作成

注目のことば ○「エシカル消費」

「つくる責任 つかう責任」のテーマに沿う概念として、人や社会・環境に配慮した消費行動「エシカル消費（倫理的な消費）」があります。消費者がものを買うときにそれが作られる背景をしっかりと考える消費行動です。地産地消により地域活性化を促すことや、被災地の特産品を消費して経済復興を応援することもエシカル消費の一つです。近年、生協グループでも「つかう責任」としてエシカル消費の取り組みが進んでいます。



耕そう、大地と地域のみらい。
(JA広報通信より)

JA広島市の自己改革

おかげさまで300万人 JA広島市 農彩館 五日市ファーマーズマーケット

JA広島市直営の産直市「農彩館 五日市ファーマーズマーケット」は、平成10年4月にオープンし、約300名の組合員からなるファーマーズマーケット出荷組合が出荷する地元で栽培した農産物をはじめ、JA広島市管内産、県内産の新鮮な農産物や加工品、鮮魚、精肉など充実した品揃えで、地域のみなさまにご利用いただいています。

この度、農彩館 五日市ファーマーズマーケットの来店者数がおかげさまで300万人を突破しました。300万人目となったのは熊佐千愛さんご家族。「この食材は離乳食にも安心して使える。300万人目になってうれしい」と喜ぶ熊佐さんには、ファーマーズマーケット出荷組合の谷口迪生組合長、JA広島市三浦隆志常務理事と一緒にくす玉を割っていただき、花束と記念品を贈呈しました。

記念すべき300万人を達成し、出荷組合の谷口組合長は「多くの方に喜んでもらえるよう今後もより一層、生産者一同励んでいく」と意欲的に語りました。

300万人を達成できたのも、生産者のみなさんに良いものを出荷していただき、また、地域のみなさまに多くご利用いただいたおかげです。これからも地域に愛される産直市となるようしっかりと運営していきますので、引き続きご愛顧いただきますよう、よろしくお願いいたします。



300万人目となり、くす玉を割った熊佐さん親子（中）と谷口組合長（右）、三浦常務（左）。